

大きな屋根のおしゃれな外観
家族それぞれに思いを込めた
優しい木の家

次世代の住まい

CASE 21

宮城県岩沼市
Nさんの家

取材日/2011年2月



客間としても、心落ち着けるスペースとしても、ご主人がぜひ欲しいと思っていた和室。もみの木の床を周りに、琉球畳風の畳を真ん中に配したデザイン。



オフホワイトのスピンオフの壁と明るくやわらかなもみの木の色合いのリビング。ダークトーンの家具が引き締めます。もみの木は腰壁にも使用し、部屋のアクセントにもなっています。スピンオフの壁はお子さんが汚してもすぐ拭けるので楽ちん。

Nさんご夫婦がりんくうタウンのモデルハウスを訪れたのは、昨年1月。まずは奥さまが、大屋根にドーマー(小さな屋根のある窓)のある外観をひと目で気に入ったとか。そしてドアを開けて中に入った瞬間の、ふわりと木の香りに包まれた印象が良かったとご主人。元気がいっぱいの子の男の子の親として、駆け回って転んでも痛くない木の床で生活させたいと思っていただけです。もみの木の床の消臭、調湿性能はもちろん、手や足に触れるやわらかな感触を体験し、ご主人が目指す「家族の健康を一番に考えた家づくり」ができる実感されたようです。

「家族と一緒に過ごす時間を大切にしたい」「洋風の家に住んでも、子どもたちには日本の和の生活を伝えたい」など、打ち合わせのたびに奥さまと話し合った将来への希望、家族への思い。「こういう機会がなければ、なかなか聞けなかったお互いの気持ちや分り合えませんでした。その結果、インテリアのほとんどを「番長く家」にいる奥さまに主導権を渡した(奪われた?)のも愛情のなせる技とか。

天真爛漫な双子の兄弟にはいつも元気をもらっています。お会いした頃はまだ3才で、二人に「ニシムヤさん」と名前を呼んでもらえた時はすごく嬉しかったです。そして掛合いがとにかく面白いN様ご夫婦。会う度に笑わせて頂きました。和風好みのご主人と洋風好みの奥様。打合せを重ね完成したのはりんくう店と同じ外観の「ハートスト」。インテリアや小物は可愛らしいカントリー調で奥様のセンスが光ります。「ご主人、心中お察し申し上げます。ご主人は、違ってもお二人に気に入って頂いたのは肌触りと香り良い檜の木でした。住んでみて蓄熱性と調湿性をやらに実感されたそうです。取材の日には雪が降っていましたが、リビングの蓄熱式暖房機1台で家中暖かかったです。どの季節もより快適に過ごせる檜の木の家は、ご家族と共に成長し続けます。きっと更なる発見があるはずですのでどうぞご期待下さいませ。

担当より一言



営業
西村



キッチンからリビングを見渡せるオープンキッチン。食事の支度をしながらお子さんたちの遊ぶ様子にもしっかり目を配れて安心です。家族でいる時、一人でキッチンに立つことも多い奥さまにとっておさみしくない造り。



キッチン脇の収納力抜群の食品庫。もみの木の調湿機能は、食品の保存にも優れています。テーブル代わりにする棚で、ちょっとした作業もできます。



玄関はいつもきれいにしたい、でもやんちゃ盛りの子もたちが泥だらけになって帰ってくるのを叱りたくない……。そんな思いから、家族が靴を脱ぐスペースを脇に広げ、アーチでさりげなく仕切って収納もたっぷり取りました。



ご家族の食事は座卓を囲んでにぎやかに。手触りのいいもみの木の床に座る生活も楽しんでいます。「子どもたちが、正座をきっちりできるようしつけもかかっています」と奥さま。



CASE21:宮城県岩沼市 Nさんのお宅

家族構成:夫・妻 長男 次男
延べ床面積:31坪 部屋4LDK
こだわり設備:1F、2Fもみの木床材 全室 省エネ&健康塗壁



2階の寝室。ふとんをひいて家族4人で寝ています。洋服類や畳んだふとんを収納できるスペースをしっかりと確保しているので、昼間は広々すっきりとしたスペースに。



キッチンのフロアはタイルにという提案もありましたが、「汚れてもそれが味わい」ともみの木のフロアに。コンロは遠赤外線料理するアヴィエスホーム独自のラジエントヒーター。



天窓から光が差し込む、吹き抜けのリビング階段。奥さまが提案した壁のステンドグラスは、壁の向こう側にある廊下の明かり取りにも。インテリアには随所に奥さまのセンスが光ります。



梁が印象的な2階ホールは、ファミリースペースとして活用。天井に埋め込んである洗濯物干しをくると出せば、雨の日のお洗濯もバッチリ。「周りが湿ることもなく気持ちよく乾きます」

